

学校教育目標	「自分が輝く みんなも輝く」							
	○自分から進んで学び、経験や知識を活かしていく力を育てます。(知) ○自分を大切にし、人に優しくできる心を育てます。(徳) ○自らの健康を見つめ、体力を高め、たくましく生きようとする態度を育てます。(体) ○丸山台のまちを愛し、よりよい地域や社会に向けて自分の役割を果たそうとする態度を育てます。(公) ○広い視野をもち、未来に向けてともに生きていく力を育てます。(開)							
学校概要	創立 41 周年	学校長	倉本 恵	副校長	野村 光	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 360 人		主な関係校: 丸山台中学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	丸山台中学校 下野庭小学校 野庭すずかけ小学校	○いつでも元気よくあいさつできる子ども ○自分も仲間も大切にできる子ども ○すすんで学習しようとする子ども 小中の連携を深め、授業力の向上を目指して ・授業参観および研究協議の機会を年2回設定します。 ・担当者会議を年4回設定します。 ・小中職員が一堂に会する合同研修会を年1回設定します。

中期取組目標	○子ども一人ひとりを大切に、「チーム丸山台」として全職員で活気と魅力ある学校づくりを目指します。 ・自分からめあてをもち、自分らしさを発揮しながら夢中になって問題解決する授業づくりに取り組みます。 ・異学年、異校種交流や地域との連携を大切にしながら、自尊感情や自己有用感を育み、コミュニケーション能力を高め、誰もが安心して豊かに生活できるようにします。 ・まちや社会で働く人との出会いや学びを通して、自分の将来への夢や希望をもって生きようとする態度を育てます。 ・『食』の学びを中心に、健やかな体と豊かな心を育むとともに、広く社会に目を向け、共に活動する姿勢を育てます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく力	①単元や毎時間のめあてを明確にするとともに、各児童の課題を把握し、学力定着に向け計画的な指導を行う。②児童の主体的な問題解決のために、必要感のある学習課題を設定し、日常生活に還元できるようにする。③子ども同士が考えや思いを伝え合い、高め合える環境設定を工夫する。
豊かな心	①学習の場やグループの人数を工夫するなどして、学習活動に对话の場面を多く取り入れ、見方・考え方を広げたり深めたりできるようにする。②異学年交流を通して他者と積極的に関わり自己肯定感を高める。③『食』の学びの指導を系統的に行い、思いやりや共生の心を育てる。
健やかな体	①児童の体力向上のために、まずは運動を楽しいと思えるような心情・姿勢を育てる。運動能力と体力を支える生活習慣について理解し、自分自身の生活の中で実践できるようにする。②保健教育では食生活のあり方も含めたよりよい生活習慣を主体的に考え、健康の保持増進を自ら図る態度を養う。
特別支援教育	①ユニバーサルデザインの視点から学習環境を整える。②特殊音節の読み書きの獲得を円滑にするために研修したり、実践したりする。③職員会議や校内委員会で情報共有を行い、支援の仕方を検討し、一人一人の支援に生かしていく。個別の教育支援計画・指導計画を活用していく。
児童生徒指導	①一年を四期に分け「自分づくりパスポート」等で成長が中学校まで継続して見られるようファイリングし、目標をもったり振り返ったりすることで、自己実現の力を育てる。②配慮を要する児童の実態や支援の方法、「学校生活のきまり」を共有することで、一貫した指導が継続できるようにしていく。
地域連携	①子どもが学区内の自治会や公共機関などつながりを持ち、地域社会の活動や地域の方の思いや考えを学べるよう、各教科・領域の単元づくりを工夫する。②地域の防災、防犯に関することや地域行事について児童に情報発信し、コロナ禍でも工夫している地域の取組を知ろうとする意識を高める。
自分づくり教育 (キャリア教育)	①各学年で食の学びに取り組み、「食」とのつながりを知り、感謝の気持ちをもつとともに、食の安全安心と課題について知る。②地域の人々と関わり、様々な職業について考えるとともに、自分たちが住むまちのよさや伝統に気付き、これからの自分について考える。
いじめへの対応	①児童の日常を全職員で見守り情報共有しながらいじめの早期発見に努め、いじめ、問題行動には関係機関も含めた組織対応で解決していく。②Y-Pアセスメントや児童アンケートでの結果をはじめ、いじめ防止委員会での各事案の精査を拠り所にし、いじめの未然防止の手立てを発信する。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①メンターチームを組織し、互いに学び合い、授業力等を向上し合える研修を行う。全職員で研修内容を共有し、人材育成に取り組む。②主幹教諭がリーダーとなり機動的に業務が遂行するしくみを構築する。③会議の時間短縮をめざし、組織として効率よく確実に伝達することや、デジタルでの提案文書の作成等を実行し、働き方改革に繋げる。

